

H30年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

★ H30は改修工事に付、評価指標見直し

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト		
市 民	1	基準稼働率の達成	3ホールの稼働率	コンサートホール	89.0%以上	78.9%	C	劇場の稼働率は目標を上回った。 コンサートホール、能楽堂は目標稼働率を下回った。 【参考】H28年度評価（指標はH30と同値） ・コンサートホール C（87.2%） ・劇場 A（80.6%） ・能楽堂 C（35.1%）	
	2			劇場	78.0%以上	80.3%	A		
	3			能楽堂	47.0%以上	37.1%	C		
	4	基準利用者数の達成	施設別利用者数 + 視察・見学者	年間人数	282,000人以上 ★	241,848人	C	目標に約4万人及ばなかった、	
	5	文化事業年間鑑賞者数	自主事業の年間入場者・参加者数	年間人数	100,000人以上 ★	102,827人	B	自主公演を積極的に実施し、目標を達成した。	
	6	貸館利用者に対するサービスの提供	地域創造ユニット（B-1-④）	対応マニュアルを設置し、利用者の安全と満足度を意識したサービスの提供をしているか。			A	担当者・担当窓口を設置し、マニュアル等を基本としつつ、舞台装置の操作助言を行うなど、利用団体の特性や公演内容等に配慮した柔軟なサポートやサービスを提供している。	
	7	貸館利用者の意見やニーズを聴取する仕組みの有無		実施していること			A	貸館利用報告書とアンケートが一体となっており、利用者の意見を聴取しやすい取り組みを行っている。更に、意見箱を設置している。	
	8	貸館利用者（主催者）満足度	アンケートによる満足度調査	満足度	90%以上	100%	A		
	9	文化事業公演年間公演回数		自主事業年間公演回数	98公演以上 ★	334公演	A	自主公演を積極的に実施し、目標を上まわった。	
	10	文化事業公演鑑賞者の意見やニーズを聴取する仕組みの有無		実施していること			A	すべての公演でアンケートを実施し、回収結果を整理のうえ事業担当者、管理職が情報共有している。	
	11	文化事業公演等の鑑賞者の満足度	アンケートによる満足度調査	創造系作品鑑賞者の満足度	90%以上	96.2%	A	観客に満足いただける事業を展開できた。	
	12			鑑賞系公演鑑賞者の満足度	90%以上	98.6%	A	//	
	13			普及系公演鑑賞者の満足度	90%以上	99.2%	A	//	
	14			育成系公演鑑賞者の満足度	90%以上	99.2%	A	//	
	15	ワークショップ回数・アウトリーチ回数		育成系事業で年間	48回以上	67回	A	東響学校訪問：60回、ジュニア邦楽教室：2回 APRICOT：5回	
	16			普及系事業で年間	17回以上	52回	A	能楽ワークショップ：12回 Noism：17回、音楽アウトリーチ：23回	
	17	育成系事業の参加者数	年度末時点での団員数	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	130人以上 90人以上 30人以上 50人以上	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	97人 130人 35人 54人	B	目標達成：コーラス、邦楽、アプリコット 目標未達：ジュニアオーケストラ ※ 合計316人で目標300人を上回った
	18	創造系事業の実施		年間公演回数	27回以上	77回	A	プロデュース演劇公演：34回 Noism：43回 → H21-24年度平均より	
	19	創造系事業市外公演回数		年間公演回数	17回以上	50回	A	プロデュース演劇公演：33回 Noism：17回 → H21-24年度平均より	

H30年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

★ H30は改修工事に付、評価指標見直し

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
市 民	20	公演や催し物情報の情報発信		下記の取組をしているか。 ①ホームページ、②メールマガジン、③テレビ・ラジオ、④新聞、⑤雑誌、⑥機関紙	①～⑥ すべて取組あり	A		
	21	地域アピールに関する取組み		活動と成果を、地域内外に積極的に広報しているか。	・演劇事業 東京公演 他 (新潟発創造) ・Noism 埼玉公演、中 国・OIA公演 他	A	新潟市民芸術文化会館外での公演を積極的に実施した。	
	22	会館記事の新聞掲載件数	名称や事業名等が新聞等に掲載された件数	年間掲載数	124件以上 ★	149件	A	新潟発創造事業等を重点的に情報発信するなど、効果的に活用した。
	23	会館会員サービス、チケット販売サービスに関する取組み	地域創造ユニット（B-2-⑥）	下記の取組をしているか。 ①会員先行予約・優先予約制度、②チケット購入者への駐車場割引、③チケット割引制度、④セット券の販売、⑤カード決済⑥会員への機関紙の送付	①～⑥ すべて取組あり	A		
	24	会館会員数の確保	年度末時点での会員数	会員数	5,400人以上	4,868人	C	H31年度より新たな会員制度を構築する。
	25	ホスピタリティに関する取組み	地域創造ユニット（B-2-③）	職員にホスピタリティ向上の必要性を徹底するとともに、利用者側に立ったサービスの提供をしているか。	①ホスピタリティ向上の必要性をスタッフに徹底している。 ②職員の服装や身だしなみ、挨拶の励行を徹底している。 ③客席案内やもぎりなどのサービスに努めている。 ④利用者の意見を収集している。 ⑤ホームページやチラシに館のアクセス経路や問合せ先をわかりやすく掲載している。	A	貸館についてはホスピタリティやサービスを徹底し、主催者から高い評価を得ている。 今後、PRの一層の強化や広くコンベンションなどの誘致も図りたい。	
財 務	1	文化事業 自主財源比率	(事業収入+文化庁補助金等) / 事業費	自主財源比率	60%以上	63.4%	A	自主財源確保に努め、目標を上回った。
	2	文化事業収入拡大に関する取組み	地域創造ユニット（C-3-②）	事業担当者が、必要に応じて営業活動を行い、事業収入の拡大に取り組んでいるか。	事業担当者及び営業の担当者が、積極的にチケットの販売経路や顧客開拓、利用者拡大のための営業活用等を行い、事業収入の拡大に努めている。	A		
	3	外部資金導入額、導入率、外部資金導入に関する取組み	地域創造ユニット（C-3-①）	外部資金の必要性を検討し、必要に応じて情報収集を行い、都度外部資金の獲得に取り組んでいるか。	外部資金を戦略的に捉え、日頃から助成金の情報収集や企業に協力・協賛を依頼できる関係づくりを行い、積極的に外部の資金の獲得・活用に努めている。	A	文化庁（芸文振）への申請・協賛企業まわり・個人協賛の募集等をおこなった。 また、Noism活動支援会員制度の改正、ホールスポンサー制度を策定した。	
	4	経費の削減		指定管理料（管理経費）・事業費補助を年度協定額及び交付決定額以下に抑える。	指定管理料 628,759,329円 事業補助金 185,451,398円	B	選択と集中、事務効率化の徹底をおこない、年度協定額及び交付決定額以下に抑えた。	
	5	市の歳入の増加		施設使用料収入	53,000千円以上 ★	49,963千円	C	コンサートホール・劇場の利用日数が想定していたより少なく、収入も大きく減少した。

H30年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
業 務	1	長期的な視点にたった管理施設の保全		長期修繕計画を作成し、必要に応じて見直しを行う。	長期修繕計画がある	B	H28～H30年度は、市発注で大改修を実施。
	2	安全責任者の配置と安全確保体制の確立		連絡体制の確立	消防訓練、防災訓練を実施している。緊急時の迅速に、責任体制、マニュアル及び連絡網が整備されている。	A	H27年度～2種類の緊急連絡網を整備した ・管理職 → 一般職員へ情報が流れるもの ・現場（一般職員） → 管理職へ情報が流れるもの
	3	事件・事故発生時の対応の適切さ		AEDの使用法の周知徹底	AEDの操作訓練を実施している	B	平成30年10月16日実施
	4	日常連絡の適切さ		月次報告書を翌月10日までに提出	毎月10日までに提出	B	
	5	事業計画・事業報告の適切さ		事業報告書を翌年度4月30日までに提出	4月30日までに提出	B	
	6	改善を必要とする際の対応の迅速さ・適切さ		改善勧告等を受けた場合は、速やかにそれに対応する。	年度末に市監査委員事務局より監査結果の報告（指摘事項あり）	B	指摘事項に順次対応し改善していく
	7	運営方針・事業目標の位置づけ		自館の設置目的、基本的使命が、運営の指針となっているか。	文化政策の一環として位置付けた独自の運営方針があり、劇場・ホールの事業や運営の指針となっており、達成目標が明確である。	A	・指定管理者業務計画書 ・同 報告書 ・本自己評価
	8	運営方針、事業目標の市民への公開		運営方針をホームページに掲載し、評価のためのアンケートを実施しているか。	施設の運営方針は、HPに掲載している。市民の意見や運営改善、評価のためにアンケートを実施している。	B	
	9	運営方針、事業目標に関する自己評価等の有無		自館の設置目的、基本的使命に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業改善に役立っているか。	施設の運営方針に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業企画や運営の改善に役立っている。	A	
	10	運営方針を実現するための経営戦略の有無		市と定期的なミーティングを行い、経営戦略の見直しに取り組んでいるか。	市と定期的なミーティングを実施しており、運営方針を踏まえながら、経費の節減や経営の効率化に取り組んでいる。	B	
	11	個人情報保護に関する実施の有無		実施していること	財団内に個人情報保護規定があり、研修が実施されている。	B	コンプライアンス研修に内包して実施
	12	当該施設の管理に関する関係法令の遵守		コンプライアンス研修の実施	内部研修を行っている。	B	H31年3月28・29日実施
	13	守秘義務の徹底		守秘義務違反に該当する問題がないこと	守秘義務違反に該当する問題はなかった。	B	
	14	他の公立館との共同・連携企画の有無・回数		共同・連携公演の企画が年間3つ以上	6企画	A	文化庁（芸文振）ネットワーク強化事業など

H30年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
人 材	1	専門性の高い人材の配置, 育成	地域創造ユニット (C-1-③)	館の各業務に必要な専門的知識や技能, 経験, 資格等を備えた職員を配置すること	専属の芸術監督やオルガニストを配置している。また, 音楽・演劇・舞踊などの各分野において専門家からの指導・助言を受けているほか, 外部主催の専門的研修会にも積極的に参加している。 H30年度は3名の職員が准認定ファンドレイザー資格を取得	A	研修会参加実績 (一部抜粋) 【舞台技術】 ・公立劇場舞台技術者連絡会 技術研修会 (6/25~26, 2/25~26) 【資金調達】 ・准認定ファンドレイザー必須研修 (4/7) 【会計事務】 ・公益法人協会主催: 会計セミナー (6/14~15, 9/13~14)
	2	職員のスキルとモチベーションの向上	地域創造ユニット (C-1-④)	内部研修を行い, 必要に応じ, 外部研修を利用しているか。	組織内部での研修実施や, 外部研修にも積極的に参加するほか, 自主企画事業の実施を通じ, スキルアップを図っている。	A	【内部研修】 ・インフォメーション研修 (2/25) ・コンプライアンス研修 (3/28~29) 【外部研修】 ・レセプションист研修 (2/14・24)
	3	労働基準の充足		労働基準違反に該当する問題がないこと	36協定違反があった。 (時間外労働の協定上限超過)	C	H31年度も引き続き時間外労働の縮減に努める。また36協定の内容を見直し, 遵守できるよう改善を図る

1. 評価指数が数値である項目は, 以下の3段階で評価。

- A 要求水準 (=評価指標) を達成し, かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準 (=評価指標) が達成されている。
- C 要求水準 (=評価指標) が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については, (一財)地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

H30年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

★ H30は改修工事に付、評価指標見直し（共催事業公演数は、ラ・フォル・ジュルネ中止を反映）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
文化の振興	1	共催事業公演数		共催公演数 32回 ★	44回	A	ラ・フォル・ジュルネ（H29年度：56公演）はH30年度から中止。後継企画 春の音楽WEEK（H30年度：15公演）	
新潟市の 地域活性化	1	市報への記事掲載回数		掲載回数 0回 ★	15回	A	H30年度から、掲載基準が大幅に難化した。市へ掲載を働きかけた	
	2	雑誌への記事掲載回数		掲載回数 152回 ★	138回	C	情報発信のために効果的に活用した	
	3	新聞広告		出稿回数 25回 ★	14回	C	情報発信のために効果的に活用した	
	4	TV告知スポット		回数 20本 ★	15本	C	情報発信のために効果的に活用した	
	5	ラジオ広告		回数 110本 ★	128本	A	情報発信のために効果的に活用した	
	6	雑誌広告		回数 13本 ★	25本	A	情報発信のために効果的に活用した	
	7	りゅーとびあマガジン		年間発行回数 4回	4回	B	情報発信のために効果的に活用した	
	8	イベントガイド		月間発行回数 1回	1回	B		
	9	会館ホームページ		更新回数 随 時	随 時	A	H28にリニューアルを行い、スマホ等にも対応可とした。チケット販売サイトもスマホ対応とした。	
	10	りゅーとびあカレンダー		年間発行回数 4回	4回	B	情報発信のために効果的に活用した	
	11	メールマガジン		月間制作数 4回	0～4回（月平均2～3回）	C	情報発信のために効果的に活用した	
	12	パートナーショップ		加盟店数 40店	48店	A	上古町等を中心に新店を開拓した	
効率的な 会館運営	1	登録レセプションистの配置	登録レセプションистの体制継続	50人体制	33人	C	非常勤、短時間勤務、低い時給のため新規採用への応募者が少なく、体制を整えられなかった。	
	2	バックステージツアー		年間開催回数 6回	6回	B		
	3	安全・リスク管理の対応度	訓練の実施回数	防火訓練	2回	2回	B	法令に従い、訓練を実施（7/19・3/18）
				防災訓練	1回	2回	A	〃 （7/19・10/9）
	4	清掃・館内美化への対応度	地域創造ユニット（B-3-③）	観客や住民が、安全に安心して利用できる施設環境と運営体制を整えているか。	清掃会社と共同で、施設の特性に応じた清掃の基準を作成し、実施状況を定期的に点検し、必要な場合は基準の見直しをおこなうとともに、館内の掲示物や備品のデザインや設置状況を含めた総合的なアメニティの向上を図っている。	A	法令の基準に従い、衛生管理を実施した。	
5	施設・設備の保守点検度	公演に支障をきたす設備故障件数	故障件数	0件	1件	C	練習室5の空調機が故障したため、部屋を変更	
		施設管理業務中の労働災害件数	災害件数	0件	0件	B		

H30年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
効 率 的 な 会 館 運 営	6	関係法令の遵守		財団情報の公開 随時対応	公開請求なし	A	
	7	一人あたりの経費	総支出額 ÷ 年間利用者数	金 額 4,000円以下 ★	4,292円	C	H30年度より休止「わくわくキッズコンサート（H29：6,987人、H30後継企画：2,367人）」 「ラ・フォル・ジュルネ（同：22,756人、4,167人）」（合計：23,209人減）の影響大

1. 評価指数が数値である項目は、以下の3段階で評価。

- A 要求水準（＝評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準（＝評価指標）が達成されている。
- C 要求水準（＝評価指標）が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については、（一財）地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

総 合 評 価 （ 所 見 ）

文化事業については、コンサートホールの天井改修が5ヶ月間に及んだこともあり、鑑賞者数は昨年度を下回ったが、目標は達成した。公演回数は、館外公演を数多く実施し昨年度を上回り目標を達した。自主財源率は、昨年度を下回ったが目標は達成している。

※ H29年度比 鑑賞者数：6,749人減 公演回数：42公演増 自主財源比率：9.2%減

文化事業公演等の鑑賞者の満足度は、昨年度に引き続き高い数値を残すことができ、十分に目標を達成しているが、更にお客様に満足して頂ける内容とすべく、工夫を続ける。

育成系事業の参加者（団員）数は、合計では目標を16人上回ったが、個別ではジュニアオーケストラのみ目標に及ばなかった。オーケストラは楽器の購入など保護者の負担が大きく、子どもの貧困化問題の影響が及んでいると思われる。

※ H29年度比 ジュニアオーケストラ：7人減 同コーラス：1人増 同邦楽：1人減 アプリコット：±0人

年間の利用者数は、ラ・フォル・ジュルネの休止（H29年度実績：約2.2万人 H30年度後継企画実績：約4千人）の影響もあり、昨年度より約1.5万人減少し目標を達成できなかった。貸館の使用料はコンサートホール・劇場の利用日数が想定していたより少なく、目標を達成できなかった。H30年度で改修工事が終了し、H31年度は通年開館に戻るため利用促進を図り目標を達成したい。

H29年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

★ H29は改修休館有りに付、評価指標見直し

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト		
市 民	1	基準稼働率の達成	3ホールの稼働率	コンサートホール	89.0%以上	85.2%	C	すべてのホールで目標稼働率を下回った。 (達成率 CH:95.7% 劇場:99.1%) 【参考】H28年度評価 ・コンサートホール C(87.2%) ・劇場 A(80.6%) ・能楽堂 C(35.1%)	
	2			劇場	78.0%以上	77.3%	C		
	3			能楽堂	47.0%以上	38.6%	C		
	4	基準利用者数の達成	施設別利用者数 + 視察・見学者・LFJ交流S	年間人数	237,000人以上 ★	257,654人	A	目標を約2万人上回った、	
	5	文化事業年間鑑賞者数	自主事業の年間入場者・参加者数	年間人数	104,000人以上 ★	109,576人	A	自主公演を積極的に実施し、目標を上まわった。	
	6	貸館利用者に対するサービスの提供	地域創造ユニット(B-1-④)	対応マニュアルを設置し、利用者の安全と満足度を意識したサービスの提供をしているか。			A	担当者・担当窓口を設置し、マニュアル等を基本としつつ、舞台装置の操作助言を行うなど、利用団体の特性や公演内容等に配慮した柔軟なサポートやサービスを提供している。	
	7	貸館利用者の意見やニーズを聴取する仕組みの有無		実施していること			A	貸館利用報告書とアンケートが一体となっており、利用者の意見を聴取しやすい取り組みを行っている。	
	8	貸館利用者（主催者）満足度	アンケートによる満足度調査	満足度	90%以上	99.1%	A		
	9	文化事業公演年間公演回数		自主事業年間公演回数	102公演以上 ★	292公演	A	自主公演を積極的に実施し、目標を上まわった。	
	10	文化事業公演鑑賞者の意見やニーズを聴取する仕組みの有無		実施していること			A	すべての公演でアンケートを実施し、回収結果を整理のうえ事業担当者、管理職が情報共有している。	
	11	文化事業公演等の鑑賞者の満足度	アンケートによる満足度調査	創造系作品鑑賞者の満足度	90%以上	97.9%	A	観客に満足いただける事業を展開できた。	
	12			鑑賞系公演鑑賞者の満足度	90%以上	97.2%	A	//	
	13			普及系公演鑑賞者の満足度	90%以上	100.0%	A	//	
	14			育成系公演鑑賞者の満足度	90%以上	99.7%	A	//	
	15	ワークショップ回数・アウトリーチ回数		育成系事業で年間	48回以上	82回	A	東響学校訪問：60回、ジュニア3教室：18回 APRICOT：4回、オルガン0回	
	16			普及系事業で年間	17回以上	52回	A	Noism：5回、音楽アウトリーチ：47回	
	17	育成系事業の参加者数	年度末時点での団員数	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	130人以上 90人以上 30人以上 50人以上	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	104人 129人 36人 54人	B	目標達成&H28年度実績を上回ったもの → コーラス、邦楽、アプリコット 目標未達（H28年度実績を上回った） → ジュニアオーケストラ
	18	創造系事業の実施		年間公演回数	27回以上	42回	A	プロデュース演劇公演：22回 Noism：20回 → H21-24年度平均より	
	19	創造系事業市外公演回数		年間公演回数	17回以上	23回	A	プロデュース演劇公演：18回 Noism：5回 → H21-24年度平均より	

H29年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

★ H29は改修休館有りに付、評価指標見直し

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
市 民	20	公演や催し物情報の情報発信		下記の取組をしているか。 ①ホームページ、②メールマガジン、③テレビ・ラジオ、④新聞、⑤雑誌、⑥機関紙	①～⑥ すべて取組あり	A		
	21	地域アピールに関する取組み		活動と成果を、地域内外に積極的に広報しているか。	アプリコット 北区公演 他 演劇事業（新潟発創造） Noism 東京公演 他 埼玉公演 他	A	新潟市民芸術文化会館外での公演を積極的に実施した。	
	22	会館記事の新聞掲載件数	名称や事業名等が新聞等に掲載された件数	年間掲載数	130件以上 ★	139件	B	新潟発創造事業、全国共同制作オペラ等を重点的に情報発信するなど、効果的に活用した。
	23	会館会員サービス、チケット販売サービスに関する取組み	地域創造ユニット（B-2-⑥）	下記の取組をしているか。 ①会員先行予約・優先予約制度、②チケット購入者への駐車場割引、③チケット割引制度、④セット券の販売、⑤カード決済⑥会員への機関紙の送付	①～⑥ すべて取組あり	A		
	24	会館会員数の確保	年度末時点での会員数	会員数	5,400人以上	5,051人	C	少子高齢化による減少傾向に歯止めがかけられなかった。
	25	ホスピタリティに関する取組み	地域創造ユニット（B-2-③）	職員にホスピタリティ向上の必要性を徹底するとともに、利用者側に立ったサービスの提供をしているか。	①ホスピタリティ向上の必要性をスタッフに徹底している。 ②職員の服装や身だしなみ、挨拶の励行を徹底している。 ③客席案内やもぎりなどのサービスに努めている。 ④利用者の意見を収集している。 ⑤ホームページやチラシに館のアクセス経路や問合せ先をわかりやすく掲載している。	A	貸館についてはホスピタリティやサービスを徹底し、主催者から高い評価を得ている。 今後、PRの一層の強化や広くコンベンションなどの誘致も図りたい。	
財 務	1	文化事業 自主財源比率	（事業収入＋文化庁補助金等）／事業費	自主財源比率	60%以上	72.6%	A	自主財源確保に努め、目標を大幅に上回った。
	2	文化事業収入拡大に関する取組み	地域創造ユニット（C-3-②）	事業担当者が、必要に応じて営業活動を行い、事業収入の拡大に取り組んでいるか。	事業担当者及び営業の担当者が、積極的にチケットの販売経路や顧客開拓、利用者拡大のための営業活用等を行い、事業収入の拡大に努めている。	A		
	3	外部資金導入額、導入率、外部資金導入に関する取組み	地域創造ユニット（C-3-①）	外部資金の必要性を検討し、必要に応じて情報収集を行い、都度外部資金の獲得に取り組んでいるか。	外部資金を戦略的に捉え、日頃から助成金の情報収集や企業に協力・協賛を依頼できる関係づくりを行い、積極的に外部の資金の獲得・活用に努めている。	A	文化庁への申請・協賛企業まわり・個人協賛の募集等をおこなった。	
	4	経費の削減		指定管理料（管理経費）・事業費補助を年度協定額及び交付決定額以下に抑える。	指定管理料 597,085,220円 事業補助金 145,374,510円	A	選択と集中、事務効率化の徹底をおこなった。 ※ 事業補助金は交付決定額の約80%	
	5	市の歳入の増加		施設使用料収入	48,300千円以上 ★	47,504千円	C	H30年度のコンサートホール改修期間が予定より長くなり貸出（予約）可能な日数が減。また同ホール改修の騒音が劇場等にも漏れる可能性を周知した結果、施設予約（使用料収入）が低調だった（目標達成率98.4%）。

H29年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
業 務	1	長期的な視点にたった管理施設の保全		長期修繕計画を作成し、必要に応じて見直しを行う。	長期修繕計画がある	B	H28～H30年度は、市発注で大改修を行う。
	2	安全責任者の配置と安全確保体制の確立		連絡体制の確立	消防訓練、防災訓練を実施している。緊急時の迅速に、責任体制、マニュアル及び連絡網が整備されている。	A	H27年度～2種類の緊急連絡網を整備 ・管理職 → 一般職員へ情報が流れるもの ・現場（一般職員） → 管理職へ情報が流れるもの
	3	事件・事故発生時の対応の適切さ		AEDの使用法の周知徹底	AEDの操作訓練を実施している	B	
	4	日常連絡の適切さ		月次報告書を翌月10日までに提出	毎月10日までに提出	B	
	5	事業計画・事業報告の適切さ		事業報告書を翌年度4月30日までに提出	4月30日までに提出	B	
	6	改善を必要とする際の対応の迅速さ・適切さ		改善勧告等を受けた場合は、速やかにそれに対応する。	改善勧告等は特になかった。	B	
	7	運営方針・事業目標の位置づけ		自館の設置目的、基本的使命が、運営の指針となっているか。	文化政策の一環として位置付けた独自の運営方針があり、劇場・ホールの事業や運営の指針となっており、達成目標が明確である。	A	・指定管理者業務計画書 ・同 報告書 ・本自己評価
	8	運営方針、事業目標の市民への公開		運営方針をホームページに掲載し、評価のためのアンケートを実施しているか。	施設の運営方針は、HPに掲載している。市民の意見や運営改善、評価のためにアンケートを実施している。	B	
	9	運営方針、事業目標に関する自己評価等の有無		自館の設置目的、基本的使命に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業改善に役立っているか。	施設の運営方針に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業企画や運営の改善に役立っている。	A	
	10	運営方針を実現するための経営戦略の有無		市と定期的なミーティングを行い、経営戦略の見直しに取り組んでいるか。	市と定期的なミーティングを実施しており、運営方針を踏まえながら、経費の節減や経営の効率化に取り組んでいる。	B	
	11	個人情報保護に関する実施の有無		実施していること	財団内に個人情報保護規定があり、研修が実施されている。	B	コンプライアンス研修に内包して実施
	12	当該施設の管理に関する関係法令の遵守		コンプライアンス研修の実施	内部研修を行っている。	B	H29年2月8・9日実施
	13	守秘義務の徹底		守秘義務違反に該当する問題がないこと	守秘義務違反に該当する問題はなかった。	B	
	14	他の公立館との共同・連携企画の有無・回数		共同・連携公演の企画が年間3つ以上	12企画	A	文化庁ネットワーク構築支援事業など

H29年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
人 材	1	専門性の高い人材の配置, 育成	地域創造ユニット (C-1-③)	館の各業務に必要な専門的知識や技能, 経験, 資格等を備えた職員を配置すること	専属の芸術監督やオルガニストを配置している。また, 音楽・演劇・舞踊などの各分野において専門家からの指導・助言を受けているほか, 外部主催の専門的研修会にも積極的に参加している。	A	研修会参加実績 (一部抜粋) 【舞台技術】 ・公立劇場舞台技術者連絡会 技術研修会 ・神奈川芸術劇場への長期研修派遣 (改修休館期間) 【アートマネジメント】 ・スタージラボ高知セッション ・全国劇場、音楽堂等アートマネジメント研修会
	2	職員のスキルとモチベーションの向上	地域創造ユニット (C-1-④)	内部研修を行い, 必要に応じ, 外部研修を利用しているか。	組織内部での研修実施や, 外部研修にも積極的に参加するほか, 自主企画事業の実施を通じ, スキルアップを図っている。	A	【内部研修】 ・コンプライアンス研修 (2/8~9) 【外部研修】 ・レセプション研修 (6/9) ・盲人誘導研修 (10/17) ・インフォメーション研修 (2/26)
	3	労働基準の充足		労働基準違反に該当する問題がないこと	36協定違反があった。 (時間外労働の協定上限超過)	C	今後は, 協定上限を超過するものがなくなるよう業務の効率化を図る。

1. 評価指数が数値である項目は, 以下の3段階で評価。

- A 要求水準 (=評価指標) を達成し, かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準 (=評価指標) が達成されている。
- C 要求水準 (=評価指標) が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については, (一財)地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

H29年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

★ H29は改修休館有りに付、評価指標見直し

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
文化の振興	1	共催事業公演数		共催公演数 80回 ★	88回	B	ラ・フォル・ジュルネ（56公演）、新潟市芸術まつり（25公演）が大きなウェイトを占める	
新潟市の 地域活性化	1	市報への記事掲載回数		掲載回数 32回 ★	39回	A	情報発信のために効果的に活用した。	
	2	雑誌への記事掲載回数		掲載回数 161回 ★	171回	B	新潟発創造事業、全国共同制作オペラ等を重点的に情報発信するなど、効果的に活用した。	
	3	新聞広告		出稿回数 27回 ★	19回	C	情報発信のために効果的に活用した	
	4	TV告知スポット		回数 21本 ★	20本	C	TV局各社と共催することで、効果的に告知スポットを放送した。	
	5	ラジオ広告		回数 117本 ★	196本	A	情報発信のために公演出演者や職員が出演するなどし、効果的に活用した。	
	6	雑誌広告		回数 14本 ★	34本	A	地元誌を中心に全国誌にも情報を掲載し、効果的に活用した。	
	7	りゅーとぴあマガジン		年間発行回数 4回	4回	B	情報発信のために効果的に活用した	
	8	イベントガイド		月間発行回数 1回	1回	B	改修による全館休館期間中は発行なし	
	9	会館ホームページ		更新回数 随 時	随 時	A	H28にリニューアルを行い、スマホ等にも対応可とし、チケット販売サイトもスマホ対応化。	
	10	りゅーとぴあカレンダー		年間発行回数 4回	4回	B	情報発信のために効果的に活用した	
	11	メールマガジン		月間制作数 4回	1～4回	C	//	
	12	パートナーショップ		加盟店数 40店	48店	A	閉店等により昨年度より減少したが、目標を上回った。	
効率的な 会館運営	1	登録レセプションистの配置	登録レセプションистの体制継続	50人体制	40人	C	非常勤、短時間勤務、低い時給のため新規採用への応募者が少なく、体制を整えられなかった。	
	2	バックステージツアー		年間開催回数 6回	6回	B		
	3	安全・リスク管理の対応度	訓練の実施回数	防火訓練	2回	2回	B	法令に従い、訓練を実施
				防災訓練	1回	2回	A	//
	4	清掃・館内美化への対応度	地域創造ユニット（B-3-③）	観客や住民が、安全に安心して利用できる施設環境と運営体制を整えているか。	清掃会社と共同で、施設の特性に応じた清掃の基準を作成し、実施状況を定期的に点検し、必要な場合は基準の見直しをおこなうとともに、館内の掲示物や備品のデザインや設置状況を含めた総合的なアメニティの向上を図っている。	A	法令の基準に従い、衛生管理を実施した。	
5	施設・設備の保守点検度	公演に支障をきたす設備故障件数	故障件数	0件	0件	B	法定点検のほか、自主的な点検もおこなった。	
		施設管理業務中の労働災害件数	災害件数	0件	0件	B		

H29年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
効 率 的 な 会 館 運 営	6	関係法令の遵守		財団情報の公開 随時対応	公開請求なし	A	
	7	一人あたりの経費	総支出額 ÷ 年間利用者数	金額 3,300円以下 → H21～24年度平均より	3,927円	C	改修に伴う全館休館があったため、年間利用者数が減少し、評価指標を達成できなかった。H30年度も部分休館があるため、指標を見直す。 ※ 年間利用者数に、新潟発創造事業の東京公演等の観覧者を加算し算出。

1. 評価指数が数値である項目は、以下の3段階で評価。

- A 要求水準（＝評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準（＝評価指標）が達成されている。
- C 要求水準（＝評価指標）が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については、（一財）地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

総 合 評 価 （ 所 見 ）

自主事業については、改修に伴う全館休館（5月末～9月初旬）の影響もあり、鑑賞者数・公演回数は昨年度を下回ったが、目標は達成した。自主財源率は、昨年度を上回ったうえ目標を達成している。

※ H28年度比 鑑賞者数：21,568人減 公演回数：56公演減 自主財源比率：3.0%増

文化事業公演等の鑑賞者の満足度は、昨年度に引き続き高い数値を残すことができ、十分に目標を達成しているが、更にお客様に満足して頂ける内容とすべく、工夫を続ける。

育成系、普及系事業のワークショップ・アウトリーチ回数についても十分に目標を達成したうえ、昨年度を上回った。普及系の増加が大きいのは、音楽アウトリーチ事業の訪問先を1年ごとに「福祉施設・病院等中心」「学校中心」としており、後者の方が需要が高いため。

※ H28年度比 育成系：9回増 普及系：15回増

施設管理の面では、改修に伴う全館休館の影響で年間の利用者数が昨年度より約6.6万人減少したが、目標を達成した。貸館の使用料はコンサートホールの改修期間延長の影響もあり約630万円減少、3ホールの稼働率も低迷し目標を達成できなかった。H30年度もコンサートホールを中心に改修が行われるが、この影響も踏まえて適切な目標を設定したい。

H28年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト		
市 民	1	基準稼働率の達成	3ホールの稼働率	コンサートホール	89.0%以上	87.2%	C	劇場の稼働率は目標を達成した。 コンサートホール、能楽堂は目標稼働率を下回った（CH達成率：97.9%） 【参考】H27年度評価 ・コンサートホール C（82.7%） ・劇場 A（83.3%） ・能楽堂 C（44.8%）	
	2			劇場	78.0%以上	80.6%	A		
	3			能楽堂	47.0%以上	35.1%	C		
	4	基準利用者数の達成	施設別利用者数 + 視察・見学者・LFJ交流S	年間人数	328,000人以上	323,780人	C	目標を若干下回った（達成率：98.7%）	
	5	文化事業年間鑑賞者数	自主事業の年間入場者・参加者数	年間人数	120,000人以上	131,144人	A	自主公演を積極的に実施し、目標を大きく上まわった。	
	6	貸館利用者に対するサービスの提供	地域創造ユニット（B-1-④）	対応マニュアルを設置し、利用者の安全と満足度を意識したサービスの提供をしているか。			A	担当者・担当窓口を設置し、マニュアル等を基本としつつ、舞台装置の操作助言を行うなど、利用団体の特性や公演内容等に配慮した柔軟なサポートやサービスを提供している。	
	7	貸館利用者の意見やニーズを聴取する仕組の有無		実施していること			A	貸館利用報告書とアンケートが一体となっており、利用者の意見を聴取しやすい取り組みを行っている。また、イベントごとのアンケート集計を実施している。	
	8	貸館利用者（主催者）満足度	アンケートによる満足度調査	満足度	90%以上	99.5%	A		
	9	文化事業公演年間公演回数		自主事業年間公演回数	118公演以上	348公演	A	自主公演を積極的に実施し、目標を上まわった。	
	10	文化事業公演鑑賞者の意見やニーズを聴取する仕組の有無		実施していること			A	すべての公演でアンケートを実施し、回収結果を整理のうえ事業担当者、管理職が情報共有している。	
	11	文化事業公演等の鑑賞者の満足度	アンケートによる満足度調査	創造系作品鑑賞者の満足度	90%以上	97.2%	A	観客に満足いただける事業を展開できた。	
	12			鑑賞系公演鑑賞者の満足度	90%以上	97.8%	A	//	
	13			普及系公演鑑賞者の満足度	90%以上	99.4%	A	//	
	14			育成系公演鑑賞者の満足度	90%以上	99.6%	A	//	
	15	ワークショップ回数・アウトリーチ回数		育成系事業で年間 → 東響40回、JC2回、APRI2回、Org4回で想定	48回以上	73回	A	東響学校訪問：60回、ジュニア3教室：6回 APRICOT：6回、オルガン1回	
	16			普及系事業で年間 → Noism5回、音楽アウトリーチ12回で想定	17回以上	37回	A	Noism：12回、音楽アウトリーチ：25回	
	17	育成系事業の参加者数	年度末時点での団員数	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	130人以上 90人以上 30人以上 50人以上	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	96人 123人 35人 50人	B	目標達成&H27年度実績を上回ったもの → コーラス、邦楽、アプリコット 目標未達&H27年度実績を下回ったもの → ジュニアオーケストラ
	18	創造系事業の実施		年間公演回数 → H21-24年度平均より	27回以上	61回	A	物語シリーズ：24回 Noism：27回 プロデュース演劇公演：10回	
	19	創造系事業市外公演回数		年間公演回数 → H21-24年度平均より	17回以上	36回	A	物語シリーズ：20回 Noism：8回 プロデュース演劇公演：8回	

H28年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
市 民	20	公演や催し物情報の情報発信		下記の取組をしているか。 ①ホームページ、②メールマガジン、③テレビ・ラジオ、④新聞、⑤雑誌、⑥機関紙	①～⑥ すべて取組あり	A		
	21	地域アピールに関する取組み		活動と成果を、地域内外に積極的に広報しているか。	アプリコット 江南区公演 他 演劇事業（新潟発創造） Noism 東京公演 他 神奈川・埼玉公演	A	新潟市民芸術文化会館外での公演を積極的に実施した。	
	22	会館記事の新聞掲載件数	名称や事業名等が新聞等に掲載された件数	年間掲載数	150件以上	148件	C	新潟発創造事業を中心に掲載を働きかけたが目標には及ばなかった（達成率：98.7%）
	23	会館会員サービス、チケット販売サービスに関する取組み	地域創造ユニット（B-2-⑥）	下記の取組をしているか。 ①会員先行予約・優先予約制度、②チケット購入者への駐車場割引、③チケット割引制度、④セット券の販売、⑤カード決済⑥会員への機関紙の送付	①～⑥ すべて取組あり	A		
	24	会館会員数の確保	年度末時点での会員数	会員数	5,400人以上	5,106人	C	クレジットカード機能のない会員制度を新設する等、会員確保に努めたが、目標には及ばなかった
	25	ホスピタリティに関する取組み	地域創造ユニット（B-2-③）	職員にホスピタリティ向上の必要性を徹底するとともに、利用者側に立ったサービスの提供をしているか。	①ホスピタリティ向上の必要性をスタッフに徹底している。 ②職員の服装や身だしなみ、挨拶の励行を徹底している。 ③客席案内やもぎりなどのサービスに努めている。 ④利用者の意見を収集している。 ⑤ホームページやチラシに館のアクセス経路や問合せ先をわかりやすく掲載している。	A	貸館についてはホスピタリティやサービスを徹底し、主催者から高い評価を得ている。 今後、PRの一層の強化や広くコンベンションなどの誘致も図りたい。	
財 務	1	文化事業 自主財源比率	（事業収入＋文化庁補助金等）／事業費	自主財源比率	60%以上	69.6%	A	自主財源確保に努め、目標を上回った。
	2	文化事業収入拡大に関する取組み	地域創造ユニット（C-3-②）	事業担当者が、必要に応じて営業活動を行い、事業収入の拡大に取り組んでいるか。	事業担当者及び営業の担当者が、積極的にチケットの販売経路や顧客開拓、利用者拡大のための営業活用等を行い、事業収入の拡大に努めている。	A		
	3	外部資金導入額、導入率、外部資金導入に関する取組み	地域創造ユニット（C-3-①）	外部資金の必要性を検討し、必要に応じて情報収集を行い、都度外部資金の獲得に取り組んでいるか。	外部資金を戦略的に捉え、日頃から助成金の情報収集や企業に協力・協賛を依頼できる関係づくりを行い、積極的に外部の資金の獲得・活用に努めている。	A	文化庁への申請・協賛企業まわり・個人協賛の募集等をおこなった。	
	4	経費の削減		指定管理料（管理経費）・事業費補助を年度協定額及び交付決定額以下に抑える。	指定管理料 642,953,395円 事業補助金 184,268,620円	B	選択と集中、事務効率化の徹底をおこなった。	
	5	市の歳入の増加		施設使用料収入	64,600千円以上	53,878千円	C	目標値算定時に改修休館の影響を見誤った。

H28年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
業 務	1	長期的な視点にたった管理施設の保全		長期修繕計画を作成し、必要に応じて見直しを行う。	長期修繕計画がある	B	H28～H30年度は、市発注で大改修を行う。
	2	安全責任者の配置と安全確保体制の確立		連絡体制の確立	消防訓練、防災訓練を実施している。緊急時の迅速に、責任体制、マニュアル及び連絡網が整備されている。	A	H27年度～2種類の緊急連絡網を整備した <ul style="list-style-type: none"> ・管理職 → 一般職員へ情報が流れるもの ・現場（一般職員） → 管理職へ情報が流れるもの
	3	事件・事故発生時の対応の適切さ		AEDの使用法の周知徹底	AEDの操作訓練を実施している	B	
	4	日常連絡の適切さ		月次報告書を翌月10日までに提出	毎月10日までに提出	B	
	5	事業計画・事業報告の適切さ		事業報告書を翌年度4月30日までに提出	4月30日までに提出	B	
	6	改善を必要とする際の対応の迅速さ・適切さ		改善勧告等を受けた場合は、速やかにそれに対応する。	改善勧告等は特になかった。	B	
	7	運営方針・事業目標の位置づけ		自館の設置目的、基本的使命が、運営の指針となっているか。	文化政策の一環として位置付けた独自の運営方針があり、劇場・ホールの事業や運営の指針となっており、達成目標が明確である。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者業務計画書 ・同 報告書 ・本自己評価
	8	運営方針、事業目標の市民への公開		運営方針をホームページに掲載し、評価のためのアンケートを実施しているか。	施設の運営方針は、HPに掲載している。市民の意見や運営改善、評価のためにアンケートを実施している。	B	
	9	運営方針、事業目標に関する自己評価等の有無		自館の設置目的、基本的使命に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業改善に役立てているか。	施設の運営方針に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業企画や運営の改善に役立てている。	A	
	10	運営方針を実現するための経営戦略の有無		市と定期的なミーティングを行い、経営戦略の見直しに取り組んでいるか。	市と定期的なミーティングを実施しており、運営方針を踏まえながら、経費の節減や経営の効率化に取り組んでいる。	B	
	11	個人情報保護に関する実施の有無		実施していること	財団内に個人情報保護規定があり、研修が実施されている。	B	コンプライアンス研修に内包して実施
	12	当該施設の管理に関する関係法令の遵守		コンプライアンス研修の実施	内部研修を行っている。	B	H29年2月16・17日実施
	13	守秘義務の徹底		守秘義務違反に該当する問題がないこと	守秘義務違反に該当する問題はなかった。	B	
	14	他の公立館との共同・連携企画の有無・回数		共同・連携公演の企画が年間3つ以上	7企画	A	文化庁ネットワーク事業など

H28年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
人 材	1	専門性の高い人材の配置, 育成	地域創造ユニット (C-1-③)	館の各業務に必要な専門的知識や技能, 経験, 資格等を備えた職員を配置すること	専属の芸術監督やオルガニストを配置している。また, 音楽・演劇・舞踊などの各分野において専門家からの指導・助言を受けているほか, 外部主催の専門的研修会にも積極的に参加している。	A	研修会参加実績 (一部抜粋) 【舞台技術】 ・公立劇場舞台技術者連絡会 技術研修会 【アートマネジメント】 ・静岡文化芸術大エクゼクティブプログラム ・全国劇場、音楽堂等アートマネジメント研修会
	2	職員のスキルとモチベーションの向上	地域創造ユニット (C-1-④)	内部研修を行い, 必要に応じ, 外部研修を利用しているか。	組織内部での研修実施や, 外部研修にも積極的に参加するほか, 自主企画事業の実施を通じ, スキルアップを図っている。	A	内部研修実績 ・ファンディング研修 (8/ 4 ~ 5) ・コンプライアンス研修 (2/16 ~ 17)
	3	労働基準の充足		労働基準違反に該当する問題がないこと	労働基準法違反に関する事例はなかった。	B	

1. 評価指数が数値である項目は, 以下の3段階で評価。

- A 要求水準 (=評価指標) を達成し, かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準 (=評価指標) が達成されている。
- C 要求水準 (=評価指標) が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については, (一財)地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

H28年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
文化の振興	1	共催事業公演数		共催公演数 92回 → H22（LFJスタート）～24年度平均より	89回	C	目標を若干下回った（達成率96.7%）ラ・フォル・ジュルネ、新潟市芸術まつりの公演数が大きなウェイトを占める。	
新潟市の 地域活性化	1	市報への記事掲載回数		掲載回数 37回 → H22～24年度平均より	40回	A	東京交響楽団第100回を1面で大きく特集してもらうなど、情報発信のために効果的に活用した。	
	2	雑誌への記事掲載回数		掲載回数 186回 → H21～24年度平均より	261回	A	新潟発創造事業を重点的に情報発信するなど、効果的に活用した。	
	3	新聞広告		出稿回数 31回 → H21～24年度平均より	44回	A	ジュニアオーケストラフェスティバルを新潟日報社と共催することで、効果的な広告掲載が可能となった。	
	4	TV告知スポット		回数 24本 → H21～24年度平均より	28本	A	TV局各社と共催することで、効果的に告知スポットを放送した。	
	5	ラジオ広告		回数 135本 → H21～24年度平均より	193本	A	情報発信のために公演出演者や職員が出演するなどし、効果的に活用した。	
	6	雑誌広告		回数 16本 → H21～24年度平均より	46本	A	地元誌を中心に全国誌にも情報を掲載し、効果的に活用した。	
	7	りゅーとびあマガジン		年間発行回数 4回	4回	B	情報発信のために効果的に活用した。	
	8	イベントガイド		月間発行回数 1回	1回	B	情報発信のために効果的に活用した。	
	9	会館ホームページ		更新回数 随 時	随 時	A	リニューアルを行い、スマホ等にも対応可とした。合わせてチケット販売サイトもスマホ対応とした。	
	10	りゅーとびあカレンダー		年間発行回数 4回	4回	B	情報発信のために効果的に活用した。	
	11	メールマガジン		月間制作数 4回	3～5回	B	//	
	12	パートナーショップ		加盟店数 40店	51店	A	近隣商店との連携を図り、周辺地域のまちづくりに積極的に取り組んだ。	
効率的な 会館運営	1	登録レセプションистの配置	登録レセプションистの体制継続	50人体制	45人	C	新規採用への応募者が少なく、予定していた求人を満たすことができなかった。	
	2	バックステージツアー		年間開催回数 6回	6回	B		
	3	安全・リスク管理の対応度	訓練の実施回数	防火訓練	2回	2回	B	法令に従い、訓練を実施
				防災訓練	1回	2回	A	//
	4	清掃・館内美化への対応度	地域創造ユニット（B-3-③）	観客や住民が、安全に安心して利用できる施設環境と運営体制を整えているか。	清掃会社と共同で、施設の特性に応じた清掃の基準やマニュアルを作成し、清楚の実施状況を定期的に点検し、必要場合は基準やマニュアルの見直しをおこなうとともに、館内の掲示物や備品のデザインや設置状況を含めた総合的なアメニティの向上を図っている。	A	法令の基準に従い、衛生管理を実施した。	
5	施設・設備の保守点検度	公演に支障をきたす設備故障件数	故障件数	0件	0件	B	法定点検のほか、自主的な点検もおこなった。	
		施設管理業務中の労働災害件数	災害件数	0件	0件	B		

H28年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
効 率 的 な 会 館 運 営	6	関係法令の遵守		財団情報の公開 随時対応	公開請求なし	A	
	7	一人あたりの経費	総支出額 ÷ 年間利用者数	金額 3,300円以下 → H21～24年度平均より	3,593円	C	文化事業費が、H27比+約3千万円によりコストが増大し、評価指標を達成できなかった。 ※ 年間利用者数に、新潟発創造事業の東京公演等の観覧者を加算し算出。

1. 評価指数が数値である項目は、以下の3段階で評価。

- A 要求水準（＝評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準（＝評価指標）が達成されている。
- C 要求水準（＝評価指標）が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については、（一財）地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

総 合 評 価 （ 所 見 ）

自主事業については、改修休館（劇場：1月～）の影響もあり、集客数・公演回数は昨年度を下回ったが、目標は達成した。自主財源率は、昨年度を上回ったうえ、目標を達成している。

※ H27年度比 集客数：2,923人減 公演回数：78公演減 自主財源比率：5.1%増

文化事業公演等の鑑賞者の満足度は、昨年度に引き続き高い数値を残すことができ、十分に目標を達成しているが、更にお客様に満足して頂ける内容とすべく、工夫を続ける。

育成系、普及系事業のワークショップ・アウトリーチ回数についても十分に目標を達成したが、昨年度を下回った。普及系の減少が大きいのは、訪問先の変更（学校中心 → 福祉施設・病院等中心）による需要減のため。

※ H27年度比 育成系：3回減 普及系：31回減

施設管理の面では、改修休館（劇場：1月～）の影響で、総入館者数が昨年度より約5.9万人減少、貸館の使用料は約1,600万円減少、で目標を達成できなかった。3ホールの稼働率も目標を達成できたのは劇場のみと低迷した。H28年度は、目標値算定時に改修休館の影響を見誤ったため、来年度は、適切な目標を設定したい。

H27年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
市 民	1	基準稼働率の達成	3ホールの稼働率	コンサートホール	89.0%以上	82.7%	C	劇場の稼働率は目標を達成した。 コンサートホール、能楽堂は目標稼働率を下回ったが、入場者数は昨年度を上回った。 【参考】昨年度評価 ・コンサートホール B (89.5%) ・劇場 B (78.8%) ・能楽堂 C (37.7%)
	2			劇場	78.0%以上	83.3%	A	
	3			能楽堂	47.0%以上	44.8%	C	
	4	基準利用者数の達成	施設別利用者数 + 視察・見学者・LFJ交流S	年間人数	347,000人以上	383,272人	A	目標を上回ることができた。
	5	文化事業年間鑑賞者数	自主事業の年間入場者・参加者数	年間人数	120,000人以上	134,067人	A	自主公演を積極的に実施し、目標を大きく上まわった。
	6	貸館利用者に対するサービスの提供	地域創造ユニット (B-1-④)	対応マニュアルを設置し、利用者の安全と満足度を意識したサービスの提供をしているか。	担当者・担当窓口を設置し、マニュアル等を基本としつつ、舞台装置の操作助言を行うなど、利用団体の特性や公演内容等に配慮した柔軟なサポートやサービスを提供している。	A		
	7	貸館利用者の意見やニーズを聴取する仕組みの有無		実施していること	貸館利用報告書とアンケートが一体となっており、利用者の意見を聴取しやすい取り組みを行っている。また、イベントごとのアンケート集計を実施している。	A		
	8	貸館利用者（主催者）満足度	アンケートによる満足度調査	満足度	90%以上	99.1%	A	
	9	文化事業公演年間公演回数		自主事業年間公演回数	118公演以上	426公演	A	自主公演を積極的に実施し、目標を上まわった。
	10	文化事業公演鑑賞者の意見やニーズを聴取する仕組みの有無		実施していること	すべての公演でアンケートを実施し、回収結果を整理のうえ事業担当者、管理職が情報共有している。	A		
	11	文化事業公演等の鑑賞者の満足度	アンケートによる満足度調査	創造系作品鑑賞者の満足度	90%以上	98.1%	A	観客に満足いただける事業を展開できた。
	12			鑑賞系公演鑑賞者の満足度	90%以上	98.1%	A	//
	13			普及系公演鑑賞者の満足度	90%以上	96.1%	A	//
	14			育成系公演鑑賞者の満足度	90%以上	98.1%	A	//
	15	ワークショップ回数・アウトリーチ回数		育成系事業で年間	48回以上	76回	A	東響学校訪問：60回、ジュニア3教室：11回 APRICOT：5回 と目標を大きく上回った。
	16			普及系事業で年間	17回以上	68回	A	Noism：16回、音楽アウトリーチ：52回 と目標を大きく上回った。
	17	育成系事業の参加者数	年度末時点での団員数	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	130人以上 90人以上 30人以上 50人以上	ジュニアオーケストラ ジュニアコーラス ジュニア邦楽 アプリコット	112人 116人 33人 45人	B 目標を上回ったもの → ジュニアコーラス、ジュニア邦楽 目標を下回ったもの → ジュニアオーケストラ、アプリコット
	18	創造系事業の実施		年間公演回数	27回以上	59回	A	物語シリーズ：7回 Noism：47回 他：5回 と目標を大きく上回った。
	19	創造系事業市外公演回数		年間公演回数	17回以上	21回	A	物語シリーズ：5回 Noism：11回 他：5回 と目標を大きく上回った。

H27年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
市 民	20	公演や催し物情報の情報発信		下記の取組をしているか。 ①ホームページ、②メールマガジン、③テレビ・ラジオ、④新聞、⑤雑誌、⑥機関紙	①～⑥ すべて取組あり	A		
	21	地域アピールに関する取り組み		活動と成果を、地域内外に積極的に広報しているか。	アプリコット 江南区公演 他 新潟発創造事業 (演劇) Noism 東京公演 他 韓国・神奈川公演他	A	新潟市民芸術文化会館外での公演を積極的に実施した。	
	22	会館記事の新聞掲載件数	名称や事業名等が新聞等に掲載された件数	年間掲載数	150件以上	142件	C	関連記事の掲載を積極的に働きかけたが、目標には及ばなかった。
	23	会館会員サービス、チケット販売サービスに関する取り組み	地域創造ユニット (B-2-⑥)	下記の取組をしているか。 ①会員先行予約・優先予約制度、②チケット購入者への駐車場割引、③チケット割引制度、④セット券の販売、⑤カード決済⑥会員への機関紙の送付	①～⑥ すべて取組あり	A		
	24	会館会員数の確保	年度末時点での会員数	会員数	5,400人以上	5,163人	C	目標には及ばなかったが、昨年度末 (5,127人) より微増。
	25	ホスピタリティに関する取り組み	地域創造ユニット (B-2-③)	職員にホスピタリティ向上の必要性を徹底するとともに、利用者側に立ったサービスの提供をしているか。	①ホスピタリティ向上の必要性をスタッフに徹底している。 ②職員の服装や身だしなみ、挨拶の励行を徹底している。 ③客席案内やもぎりなどのサービスに努めている。 ④利用者の意見を収集している。 ⑤ホームページやチラシに館のアクセス経路や問合せ先をわかりやすく掲載している。	A	貸館についてはホスピタリティやサービスを徹底し、主催者から高い評価を得ている。 今後、PRの一層の強化や広くコンベンションなどの誘致も図りたい。	
財 務	1	文化事業 自主財源比率	(事業収入+文化庁補助金等) / 事業費	自主財源比率	60%以上	64.5%	A	目標を上回ることができた。
	2	文化事業収入拡大に関する取り組み	地域創造ユニット (C-3-②)	事業担当者が、必要に応じて営業活動を行い、事業収入の拡大に取り組んでいるか。	事業担当者及び営業の担当者が、積極的にチケットの販売経路や顧客開拓、利用者拡大のための営業活用等を行い、事業収入の拡大に努めている。	A		
	3	外部資金導入額、導入率、外部資金導入に関する取り組み	地域創造ユニット (C-3-①)	外部資金の必要性を検討し、必要に応じて情報収集を行い、都度外部資金の獲得に取り組んでいるか。	外部資金を戦略的に捉え、日頃から助成金の情報収集や企業に協力・協賛を依頼できる関係づくりを行い、積極的に外部の資金の獲得・活用に努めている。	A	文化庁への申請・協賛企業まわり・個人協賛の募集等をおこなった。	
	4	経費の削減		指定管理料 (管理経費)・事業費補助を年度協定額及び交付決定額以下に抑える。	指定管理料 661,990,750円 事業補助金 204,551,506円	B	選択と集中、事務効率化の徹底をおこなった。	
	5	市の歳入の増加		施設使用料収入	71,000千円以上	69,813千円	C	コンサートホール、劇場の施設使用料が落ち込んだ。

H27年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
業 務	1	長期的な視点にたった管理施設の保全		長期修繕計画を作成し、必要に応じて見直しを行う。	長期修繕計画がある	B	H28～H30年度は、市発注で大改修を行う。
	2	安全責任者の配置と安全確保体制の確立		連絡体制の確立	消防訓練、防災訓練を実施している。緊急時の迅速に、責任体制、マニュアル及び連絡網が整備されている。	A	H27年度～2種類の緊急連絡網を整備した ・管理職 → 一般職員へ情報が流れるもの ・現場（一般職員） → 管理職へ情報が流れるもの
	3	事件・事故発生時の対応の適切さ		AEDの使用方法的周知徹底	AEDの操作訓練を実施している	B	
	4	日常連絡の適切さ		月次報告書を翌月10日までに提出	毎月10日までに提出	B	
	5	事業計画・事業報告の適切さ		事業報告書を翌年度4月30日までに提出	4月30日までに提出	B	
	6	改善を必要とする際の対応の迅速さ・適切さ		改善勧告等を受けた場合は、速やかにそれに対応する。	改善勧告等は特になかった。	B	
	7	運営方針・事業目標の位置づけ		自館の設置目的、基本的使命が、運営の指針となっているか。	文化政策の一環として位置付けた独自の運営方針があり、劇場・ホールの事業や運営の指針となっており、達成目標が明確である。	A	・指定管理者業務計画書 ・同 報告書 ・本自己評価
	8	運営方針、事業目標の市民への公開		運営方針をホームページに掲載し、評価のためのアンケートを実施しているか。	施設の運営方針は、HPに掲載している。市民の意見や運営改善、評価のためにアンケートを実施している。	B	
	9	運営方針、事業目標に関する自己評価等の有無		自館の設置目的、基本的使命に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業改善に役立っているか。	施設の運営方針に基づいて、事業ごとの評価、運営・経営面からの評価を行い、事業企画や運営の改善に役立っている。	A	
	10	運営方針を実現するための経営戦略の有無		市と定期的なミーティングを行い、経営戦略の見直しに取り組んでいるか。	市と定期的なミーティングを実施しており、運営方針を踏まえながら、経費の節減や経営の効率化に取り組んでいる。	B	
	11	個人情報保護に関する実施の有無		実施していること	財団内に個人情報保護規定があり、研修が実施されている。	B	情報セキュリティ研修に内包して実施 ※ H28年3月29・30日実施
	12	当該施設の管理に関する関係法令の遵守		コンプライアンス研修の実施	内部研修を行っている。	B	H28年2月25・26日実施
	13	守秘義務の徹底		守秘義務違反に該当する問題がないこと	守秘義務違反に該当する問題はなかった。	B	
	14	他の公立館との共同・連携企画の有無・回数		共同・連携公演の企画が年間3つ以上	13企画	A	神奈川芸術劇場等と連携、指標を大きく上回った

H27年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（市「公の施設目標管理型評価書」と同項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
人 材	1	専門性の高い人材の配置, 育成	地域創造ユニット (C-1-③)	館の各業務に必要な専門的知識や技能, 経験, 資格等を備えた職員を配置すること	専属の芸術監督やオルガニストを配置している。また, 音楽・演劇・舞踊などの各分野において専門家からの指導・助言を受けているほか, 外部主催の専門的研修会にも積極的に参加している。	A	研修会参加実績 (一部抜粋) 【舞台技術】 ・公立劇場舞台技術者連絡会 技術研修会 【アートマネジメント】 ・文化芸術, 実演芸能団体アートマネジメントゼミ ・全国劇場, 音楽堂等連携フォーラム
	2	職員のスキルとモチベーションの向上	地域創造ユニット (C-1-④)	内部研修を行い, 必要に応じ, 外部研修を利用しているか。	組織内部での研修実施や, 外部研修にも積極的に参加するほか, 自主企画事業の実施を通じ, スキルアップを図っている。	A	内部研修実績 ・コンプライアンス研修 ・情報セキュリティ研修 ・庶務研修 (新規採用者のみ)
	3	労働基準の充足		労働基準違反に該当する問題がないこと	労働基準法違反に関する事例はなかった。	B	

1. 評価指数が数値である項目は, 以下の3段階で評価。

- A 要求水準 (=評価指標) を達成し, かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準 (=評価指標) が達成されている。
- C 要求水準 (=評価指標) が達成されていない。

2. 数値で表しにくい項目については, (一財)地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に以下のとおり4段階で評価する。

- イ 持続とさらなる向上が期待される。 → A
- ロ ステップアップが望まれる。 → B
- ハ 見直しが必要である。 → C
- ニ 抜本的な見直しが必要である。 → D

H27年度 新潟市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（指定管理者独自の項目）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト	
文化の振興	1	共催事業公演数		共催公演数 92回 → H22（L F Jスタート）→24年度平均より	108回	A	ラ・フォル・ジュルネ、新潟市芸術まつりの公演数が大きなウェイトを占める。	
新潟市の 地域活性化	1	市報への記事掲載回数		掲載回数 37回 → H22→24年度平均より	59回	A	情報発信のため効果的に活用した。	
	2	雑誌への記事掲載回数		掲載回数 186回 → H21→24年度平均より	170回	C	//	
	3	新聞広告		出稿回数 31回 → H21→24年度平均より	32回	B	//	
	4	TV告知スポット		回数 24本 → H21→24年度平均より	21本	C	//	
	5	ラジオ広告		回数 135本 → H21→24年度平均より	193本	A	//	
	6	雑誌広告		回数 16本 → H21→24年度平均より	34本	A	//	
	7	りゅーとびあマガジン		年間発行回数 4回	4回	B	//	
	8	イベントガイド		月間発行回数 1回	1回	B	//	
	9	会館ホームページ		更新回数 随 時	随 時	B	//	
	10	りゅーとびあカレンダー		年間発行回数 4回	4回	B	//	
	11	メールマガジン		月間制作数 4回	3～4回	B	//	
	12	パートナーショップ		加盟店数 40店	50店	A	近隣商店との連携を図り、周辺地域のまちづくりに積極的に取り組んだ。	
効率的な 会館運営	1	登録レセプションистの配置	登録レセプションистの体制継続	50人体制	47人	C	採用後に辞退する者がいたことで、予定していた求人を満たすことができなかった。	
	2	バックステージツアー		年間開催回数 6回	6回	B		
	3	安全・リスク管理の対応度	訓練の実施回数	防火訓練	2回	2回	B	法令に従い、訓練を実施
				防災訓練	1回	2回	A	//
	4	清掃・館内美化への対応度	地域創造ユニット（B-3-③）	観客や住民が、安全に安心して利用できる施設環境と運営体制を整えているか。	清掃会社と共同で、施設の特性に応じた清掃の基準やマニュアルを作成し、清楚の実施状況を定期的に点検し、必要な場合は基準やマニュアルの見直しをおこなうとともに、館内の掲示物や備品のデザインや設置状況を含めた総合的なアメニティの向上を図っている。	A	法令の基準に従い、衛生管理を実施した。	
5	施設・設備の保守点検度	公演に支障をきたす設備故障件数	故障件数	0件	0件	B	法定点検のほか、自主的な点検もおこなった。	
		施設管理業務中の労働災害件数	災害件数	0件	0件	B		

市民芸術文化会館 指定管理者自己評価（H26年度）

区分	評価項目	評価指標	評価基準	評価指数	26年度実績	評価	コメント
新潟市における芸術文化の振興	自主文化事業(全体)振興度	年間集客数	年間延べ観客数	120,000人	120,621人	B	年間集客数、自主財源比率は年度目標を達成した。自主公演を積極的に実施し、目標公演回数を大きく上回った。
		自主財源比率	(事業収入+助成金/協賛金)÷事業費	60%	61.3%	B	
		年間公演回数	自主公演の年間公演回数(当初の予定数)	247公演	345公演	A	
	①鑑賞系事業振興度	顧客満足度	アンケート調査による満足度調査	90%	98.0%	A	アンケートによる満足度調査では観客に満足頂ける事業を展開できたと考え、満足度及びワークショップ、アウトリーチ回数で目標を上回った。
	②普及系事業振興度	顧客満足度	アンケート調査による満足度調査	90%	96.6%	A	
		ワークショップ数・アウトリーチ回数	Noism 5回+音楽アウトリーチ12回で想定	17回	37回	A	
	③育成系事業振興度	顧客満足度	アンケート調査による満足度調査	90%	99.3%	A	顧客満足度では目標値を上回った。アウトリーチについては東京交響楽団の団員が市内各小学校を訪問し、演奏の魅力を紹介した。
		ワークショップ数・アウトリーチ回数	東響40回+JC 2回+APRI 2回+Org4回で想定	48回	54回	A	
		J O 参加者数(団員数)	3年間(H22-24年度)の平均数 ※4年間の平均数より多いため	135人	131人	C	
		J C 参加者数(団員数)	4年間(H21-24年度)の平均数	92人	105人	A	
		J 邦 参加者数(団員数)	〃	30人	39人	A	
	④新潟発創造系事業振興度	顧客満足度	アンケート調査による満足度調査	90%	96.8%	A	本館の知名度とイメージ向上に貢献する事業であるが、顧客満足度と交当館及び市外での公演数はともに目標を達成した。
		実施事業数	4年間(H21-24年度)の平均数	27回	50回	A	
		市外公演回数	〃	17回	24回	A	
	⑤市民の文化活動支援事業振興度	共催事業公演数	3年間(H22-24年度)の平均数 ※H22よりLFJスタート	92回	129回	A	ラ・フォル・ジュルネ、新潟市芸能まつりの公演数が大きなウェイトを占める。
新潟市の地域活性化	新潟市のステイタス向上への貢献度	他の公立館との共同・連携公演数	音楽1回+演劇1回+能楽1回で想定	3企画	8企画	A	連携事業は、文化庁の補助金を受け8企画を実施した。 メディア関係では、新聞及び雑誌に対し、関連記事の掲載について背曲的に働きかけた。
		新聞への記事掲載回数	4年間(H21-24年度)の平均数	154回	123回	C	
		市報への記事掲載回数	3年間(H22-24年度)の平均数 ※4年間の平均数より多いため	37回	31回	C	
		雑誌への記事掲載回数	4年間(H21-24年度)の平均数	186回	152回	C	
	公演や催物情報の情報発信	新聞広告	4年間(H21-24年度)の平均数	31本	25本	C	情報発信では、ラジオ・雑誌を通じて広告をさらに強化するとともに、広報誌・HPなども効果的に活用した。 また、引き続き近隣商店との連携を図り、周辺地域のまちづくりに積極的に取り組んだ。
		TV告知スポット	〃	24本	17本	C	
		ラジオ告知	〃	135本	209本	A	
		雑誌広告	〃	16本	40本	A	
		りゅーとびあマガジン	年間発行回数	4回	4回	B	
		イベントガイド	月間発行回数	1回	1回	B	
		会館ホームページ	更新回数	随時	随時	B	
		りゅーとびあエンターテイメントカレンダー	年間発行回数	4回	4回	B	
		メールマガジン	月間制作数	4回	4回	B	
パートナーショップ	加盟店数	40店	46店	A			

総合評価
<p>自主事業については、集客数、自主財源比率は昨年を下回ったが年度目標を達成した。公演回数は昨年より大きく増加しており、十分に目標を達成している。</p> <p>普及系、育成系事業についても公演回数は全体として目標を上回っており満足度でも高い数値を残すことができたが、よりお客様に満足して頂ける内容とすべく工夫を加える必要がある。</p> <p>施設管理の面では、総入館者数が昨年度より約8千人増加するとともに、貸館の使用料も約70万円増加し、目標値を上回ったが、今後もさらなる増収に向け、イベントや大規模なコンベンション等の誘致に努める。</p>

- 評価指数が数値である項目は、以下の3段階で評価。
 - A：評価基準を達成し、かつ達成度・内容が優秀
 - B：評価基準が達成されている。
 - C：評価基準が達成されていない。
- 数値で表しにくい項目については、(財)地域創造作成の「公立ホール・公立劇場の評価指針」の戦略評価ユニットを基に評価指標を設定し、以下のとおり4段階で評価する。
 - イ 持続とさらなる向上が期待される。→A
 - ロ ステップアップが望まれる。→B
 - ハ 見直しが必要である。→C
 - ニ 抜本的な見直しが必要である。→D

	評価項目	評価指標	評価基準	評価指数	26年度実績	評価	コメント
効率的な 会館運 営	施設運営業務						
	施設利用者(主催者)の利用度	施設の稼働率	3ホールの稼働率	CH 89%	CH 89.5%	B	コンサートホール、劇場の稼働率は目標を達成した。能楽堂は目標稼働率を下回ったが、入場者数は昨年度を上回った。 貸館についてはホスピタリティやサービスを徹底し、主催者から高い評価を得ている。今後、PRの一層の強化や広くコンベンションなどの誘致も図りたい。 友の会の会員数は、景気の低迷や嗜好の多様化などにより、目標を下回っており、今後、PR強化やキャンペーンによるテコ入れなどの対策を講じたい。
				TH 78%	TH 78.8%	B	
				NH 47%	NH 37.7%	C	
		入場者数	施設別入場者数+視察・見学者	347,000人	370,040人	A	
		主催者の満足度	アンケート調査による満足度調査	90%	100.0%	A	
	各種サービス・利用促進	ホスピタリティ(おもてなし)に関する取組	地域創造ユニット(B-2-③)	4段階中3		A	
		利用者の立場に立った柔軟な貸館サービス	地域創造ユニット(B-1-④)	4段階中3		A	
		登録レセプションニストの配置	登録レセプションニストの体制継続	50人体制	50人	B	
		会員サービス	友の会会員数の継続	5,600人	5,127人	C	
		会員チケット販売サービス	地域創造ユニット(B-2-⑥)	4段階中3		A	
		バックステージツアー	年間開催回数	6回	6回	B	
	施設管理業務						
	環境、危機管理に配慮した効率的な施設管理度	安全・リスク管理の対応度	訓練の実施回数	防火 2回	防火 2回	B	施設の管理については、法令の基準に従い、保守点検、衛生管理を実施したほか、自主的な点検もきめ細かく行った。 さらに、安心・安全を確保するため、各種訓練を実施している。
				防災 1回	防災 2回	A	
				AED 1回	AED 1回	B	
		清掃・館内美化への対応度	地域創造ユニット(B-3-③)	4段階中3		A	
		施設・設備の保守点検度	公演に支障をきたす設備故障件数	0件	0件	B	
	施設管理業務中の労働災害件数		0件	0件	B		
	その他の業務						
新潟市の指示に従う業務達成状況	経費の削減	指定管理料の削減	年度協定額以下	達成	A	選択と集中、事務効率化の徹底により市からの受託事業経費、補助対象事業経費とともに、相当額の削減を行った。	
		補助金の削減	交付決定額以下	達成	A		
	市の歳入の増加	施設使用料	71,000千円	73,164千円	B		
	関係法令の遵守	財団情報の公開	随時対応	公開請求あり	A		
		コンプライアンス研修の実施	1回	1回	B		
経営体制							
目標達成に適切な経営体制達成度	専門性の高い人材の登用・育成	地域創造ユニット(C-1-③)	4段階中3		A	施設部門は、専門家からの技術の習得により、事業部門は、人材交流や芸術鑑賞などにより、人材育成を図っている。	
	職員のスキルとモチベーションの向上	地域創造ユニット(C-1-④)	4段階中3		A		
経営努力							
目標達成に適切な経営努力度	文化事業収入拡大に関する取り組み	地域創造ユニット(C-3-②)	4段階中3		A	外部資金調達のため、文化庁への申請や協賛企業をまわり、個人協賛の募集を実施するとともに、冗費削減や事務の効率化などにより、事業コストを引き下げ、経営の健全化を進めた。	
	助成金・協賛金など外部資金の活用	地域創造ユニット(C-3-①)	4段階中3		A		
	一人当たり経費(総支出額÷年間利用者数)	4年間(H21-24年度)の平均数	3,300円以下	3,242円	B		